

当院のがん診療について (2025年)

はじめに

当谷津保健病院は、千葉県がん診療連携協力病院に指定されています。千葉県がん診療連携協力病院は同拠点病院と連携して地域の方々に質の高いがん診療を提供する病院です。

協力病院の指定要件の一つに、自施設の診療従事者等に自院のがん対策、がん診療等について学ぶ機会を毎年、確保することが求められています。

職員の方々におかれましては当院でおこなわれているがん診療について実情を知り、認識を高めていただけますようお願いいたします。

谷津保健病院 乳腺外科/緩和ケア科部長
理事長 宮崎 正二郎

当院のがん診療について (2025年)

内容

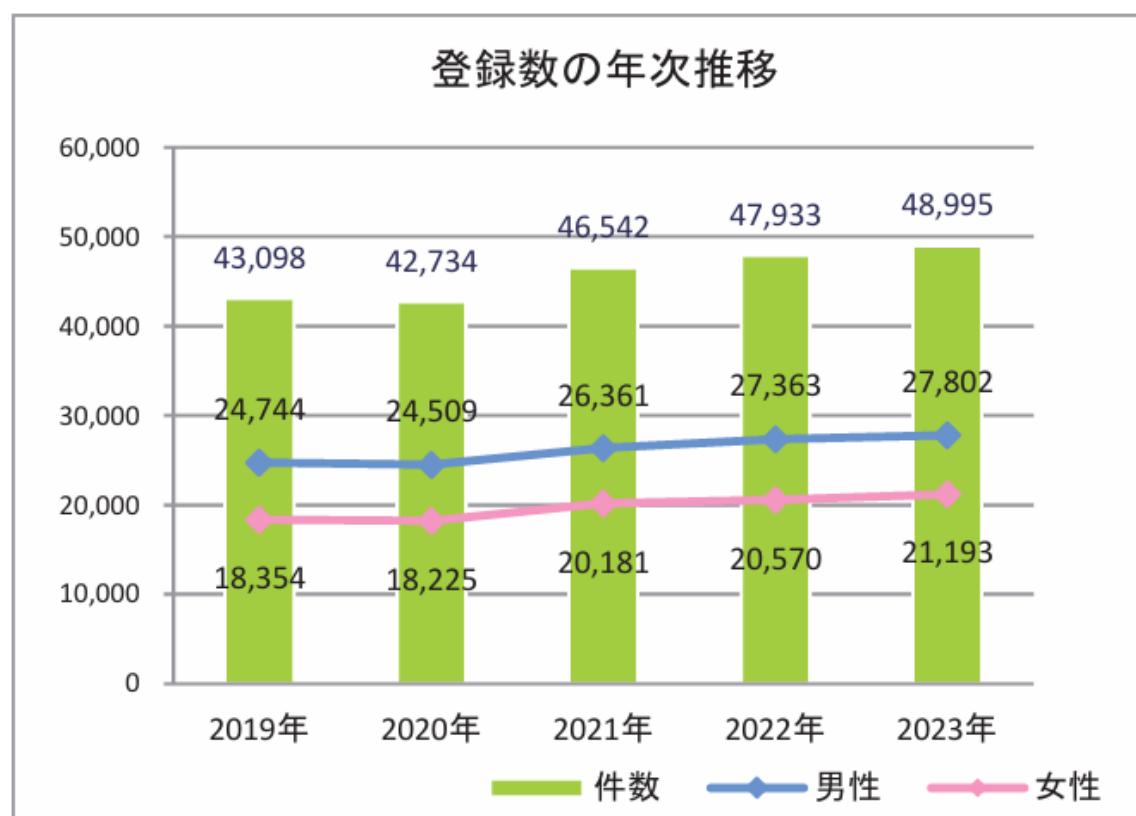
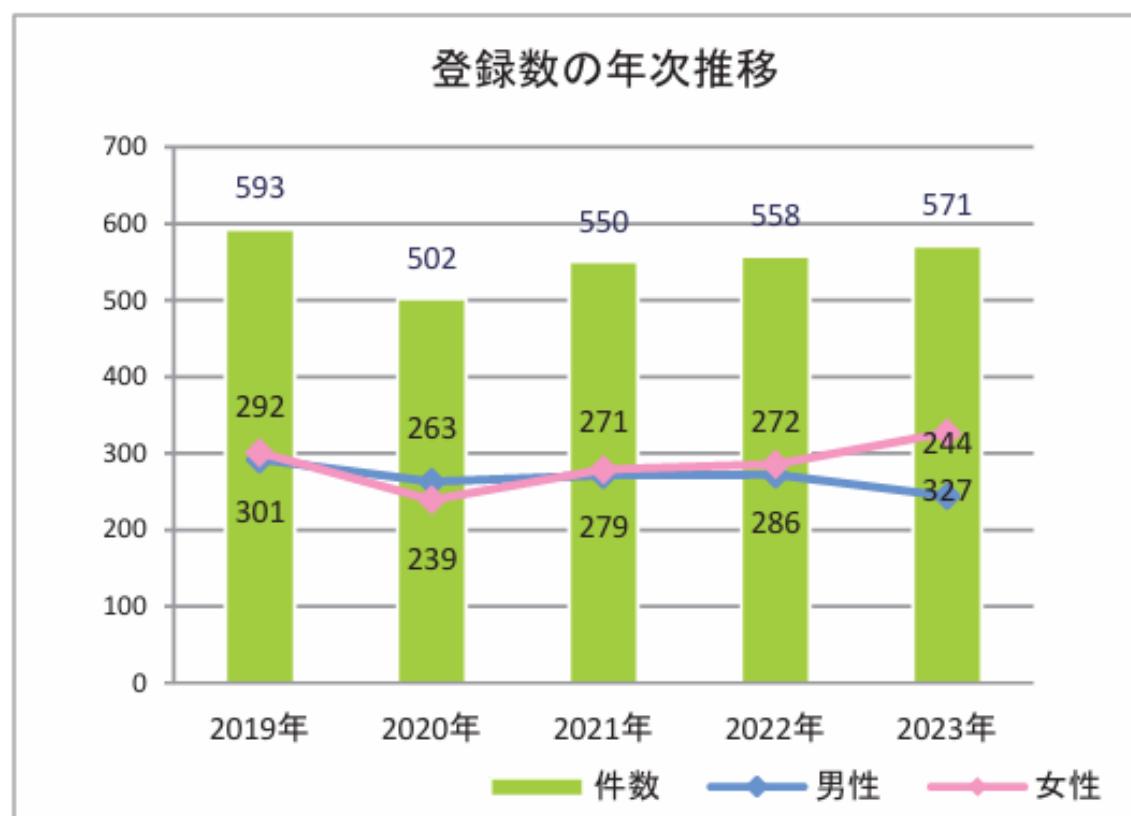
- ・ 谷津保健病院と千葉県全体の院内がん登録
- ・ 当院のがん治療（手術）の年次推移
- ・ 当院の化学療法、緩和医療、地域連携パス、がん相談

作成 谷津保健病院 がん診療連携委員会

谷津保健病院と千葉県全体の院内がん登録

谷津保健病院

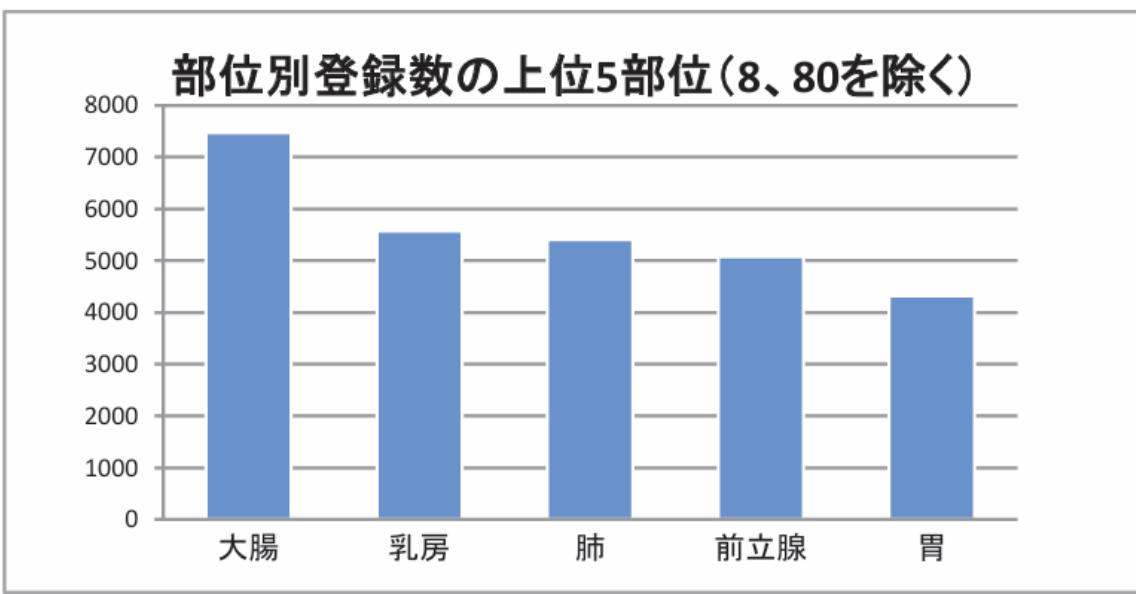
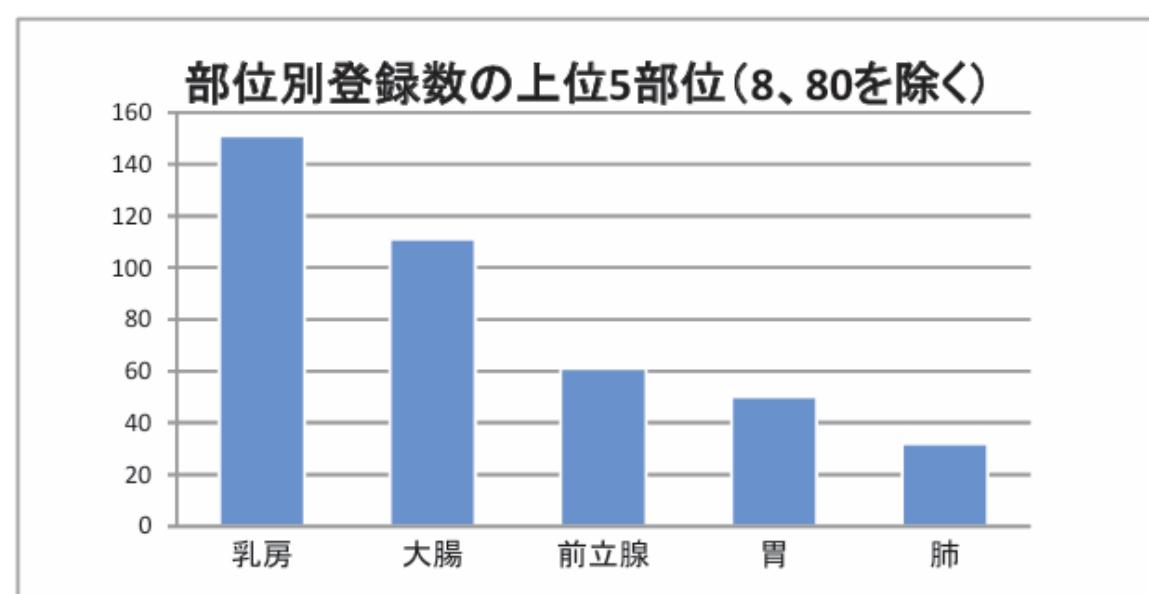
1.がん登録数



↑ 千葉県全体では2019-23年の5年間でがん登録は漸増しています。当院ではここ3年間は550→570例で微増の状況です。

2.部位別登録数

2023年



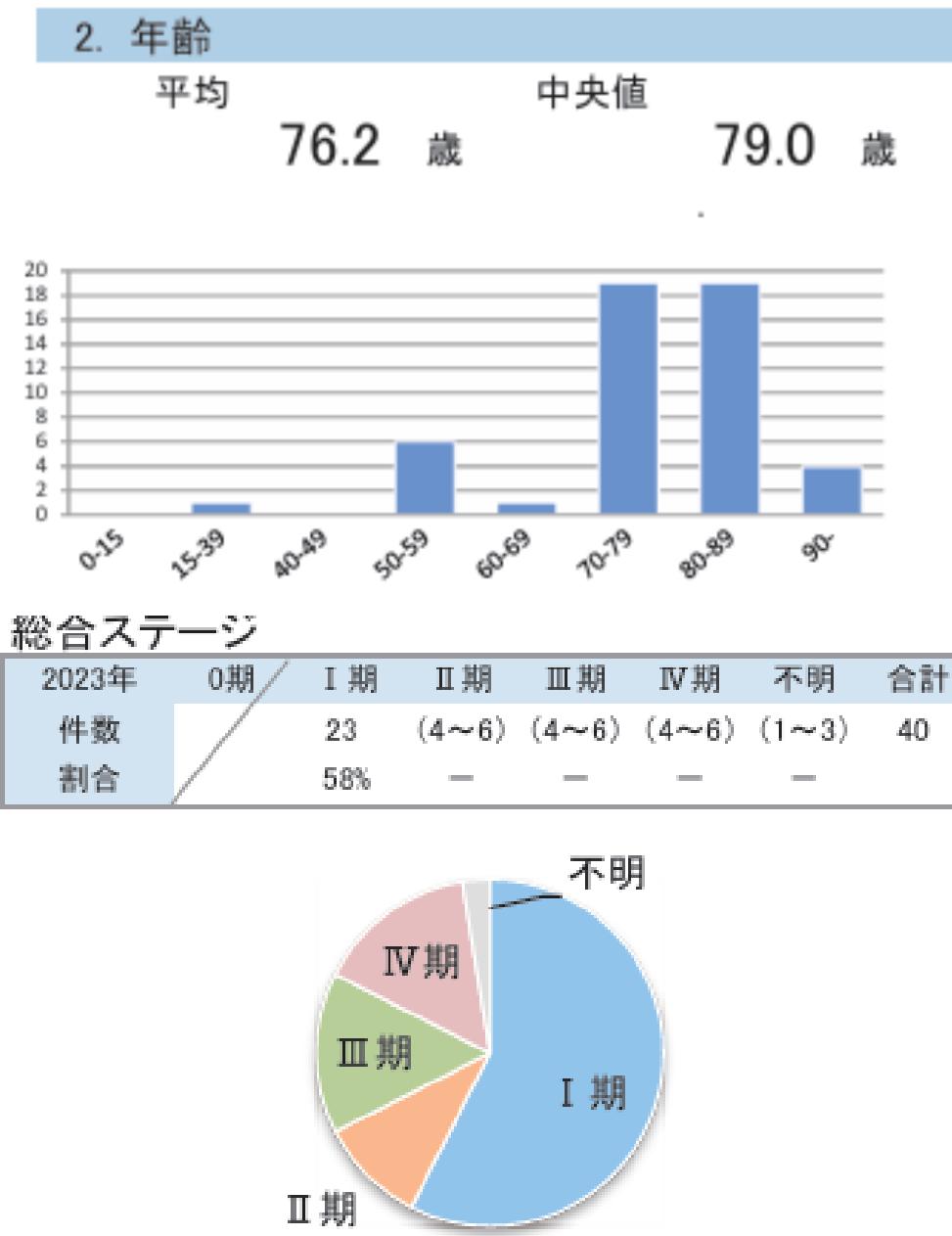
1-3. 部位別登録数の上位5部位(8、80を除く)

順位	2022年		2023年	
	部位名	件数	部位名	件数
1	大腸	145	乳房	151
2	乳房	128	大腸	111
3	胃	51	前立腺	61
4	前立腺	50	胃	50
5	肺	25	肺	32

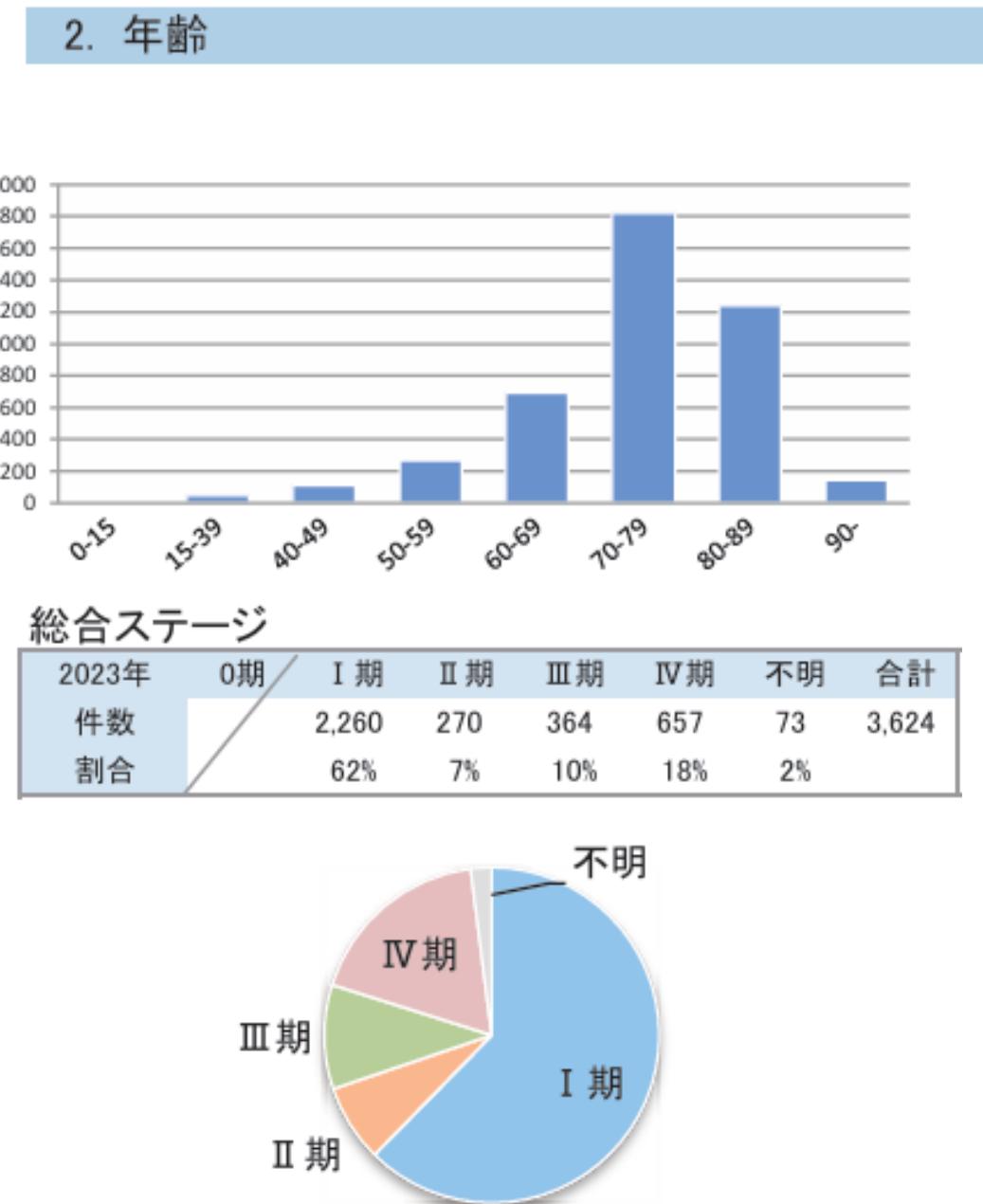
↑2023年は千葉県全体では大腸がん、次いで乳がんの順、当院では乳がん、大腸がんの順で、胃・前立腺・肺がんの登録数は少ない状況です。

3. 胃がん

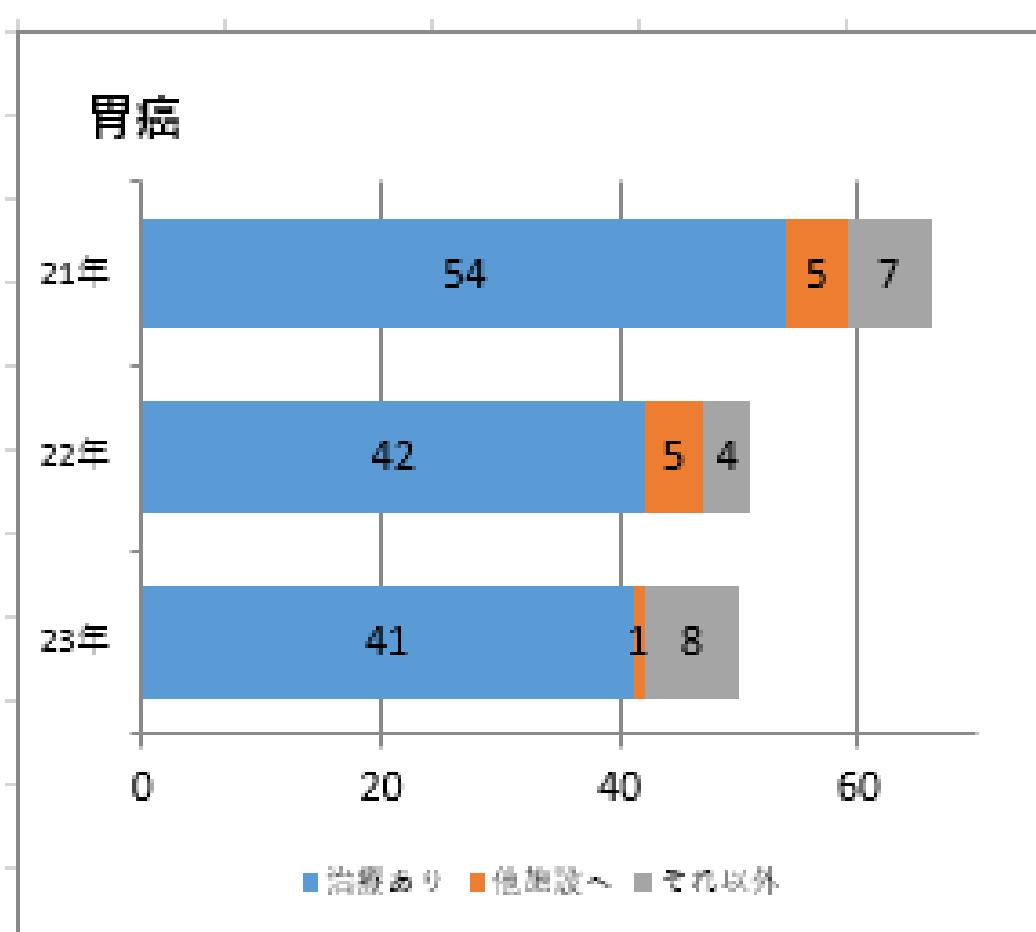
谷津保健病院



千葉県全体

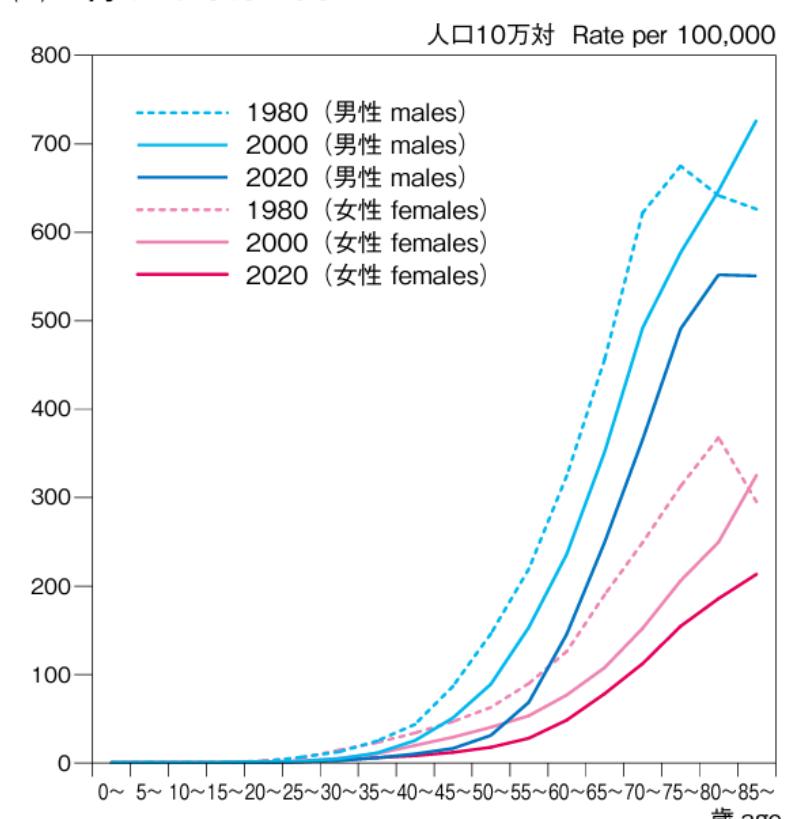


↑ 胃がんの年齢分布は70歳台が最多で次いで80歳台の順で千葉県全体と似通っています。高齢者ではピロリ菌罹患による発症が考えられます。検診受診者の早期発見等によるステージI期が多くなり、一方で検診未診、有症状時でも受診遅延などもありステージIII,IV期もみられています。当院のステージ分布は千葉県全体とほぼ同じです。



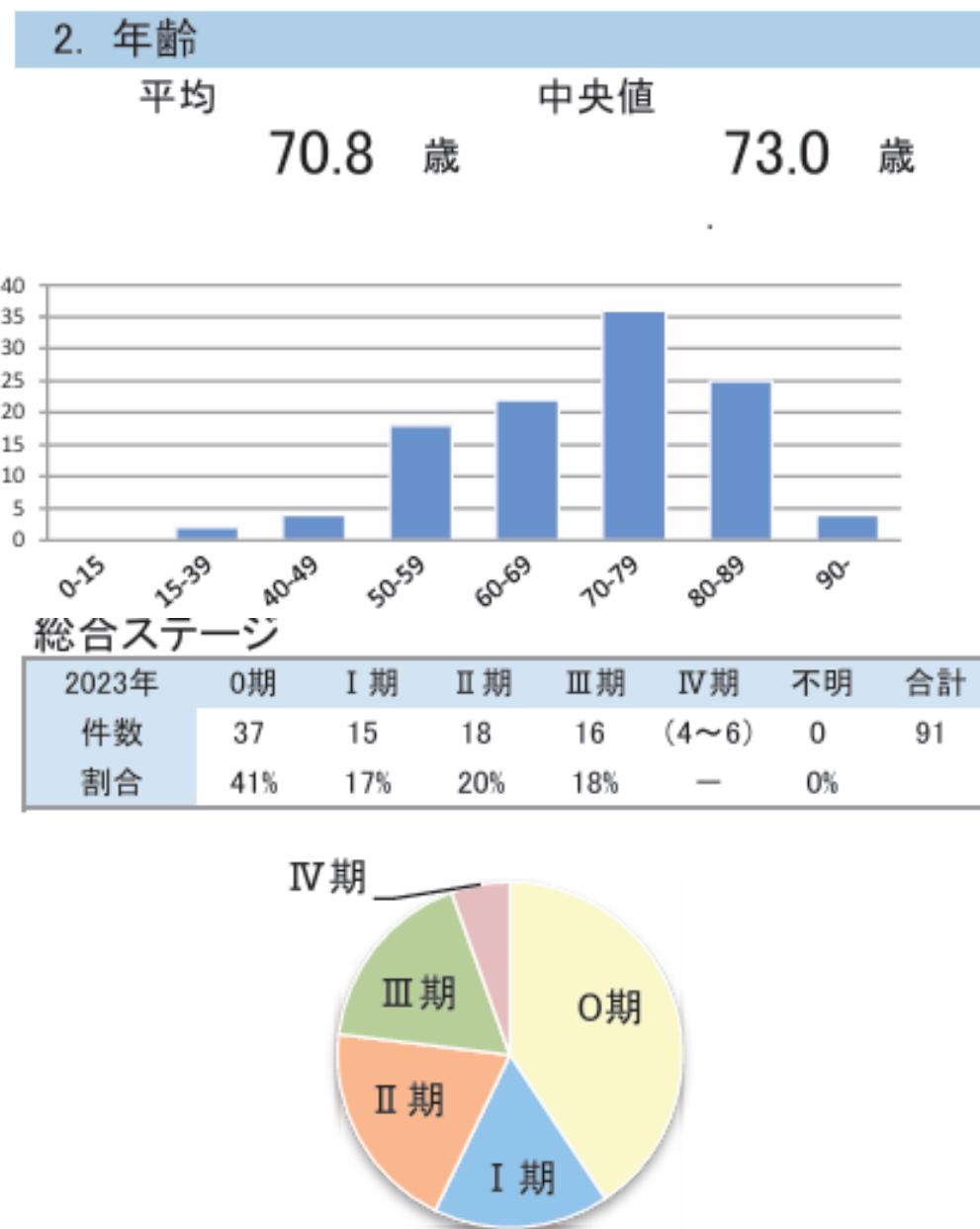
←当院では、胃がんは年次的に減少傾向にあります。↓全国的にも胃がんは年々減少傾向にあります。

(3) 胃がん Stomach

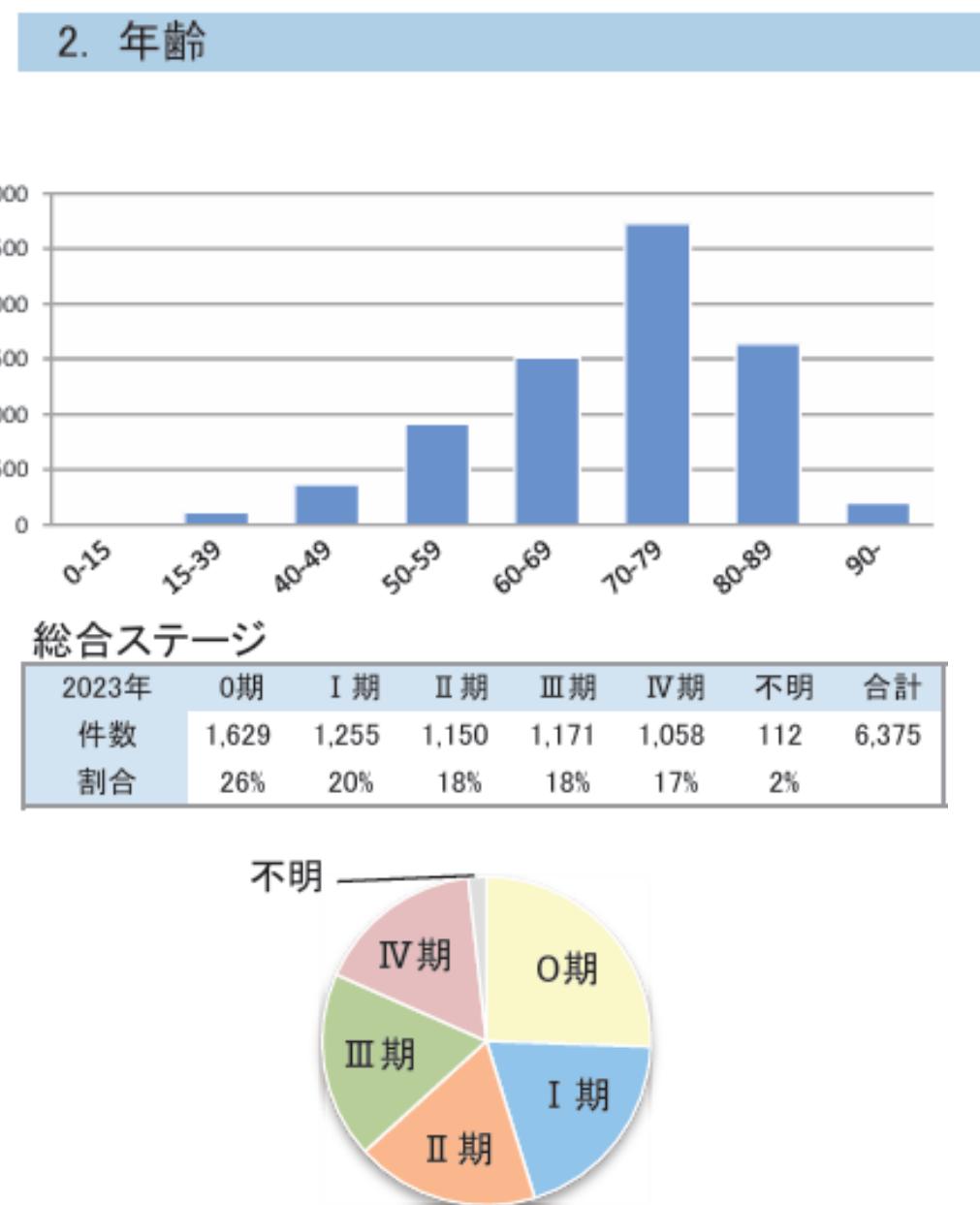


4. 大腸がん

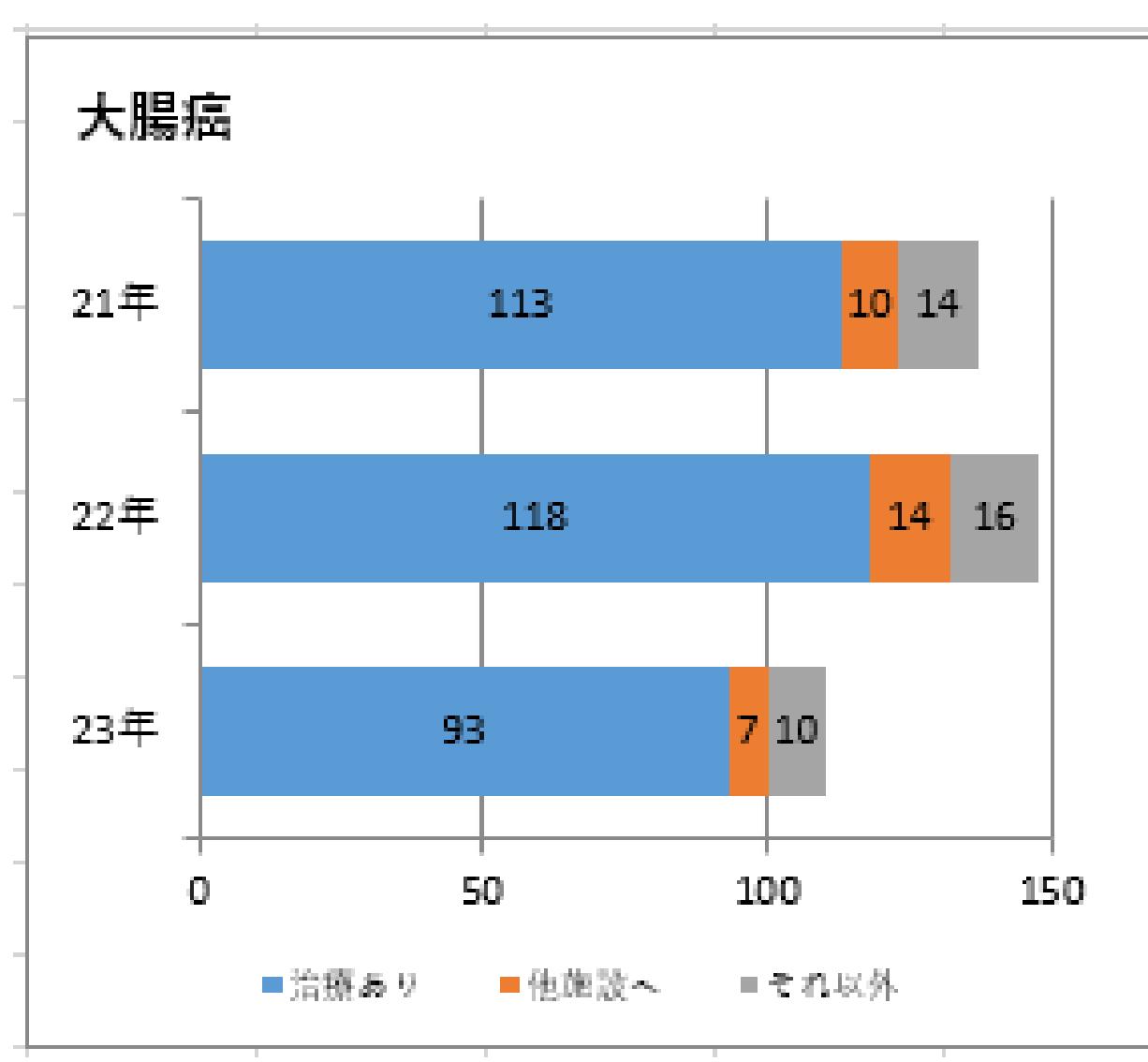
谷津保健病院



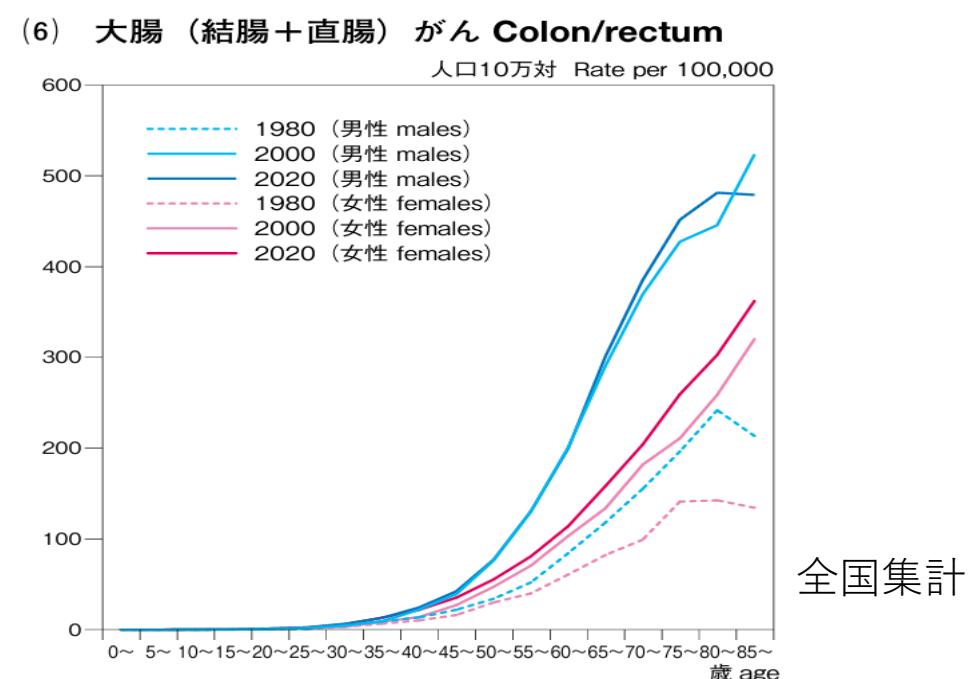
千葉県全体



↑ 大腸がんの年齢分布は70歳台が最多であることは千葉県全体と同じ。
当院では他施設に比べステージ0期（粘膜がん）の割合が多くなっています。
大腸内視鏡施行による早期発見例が多いと考えられます。

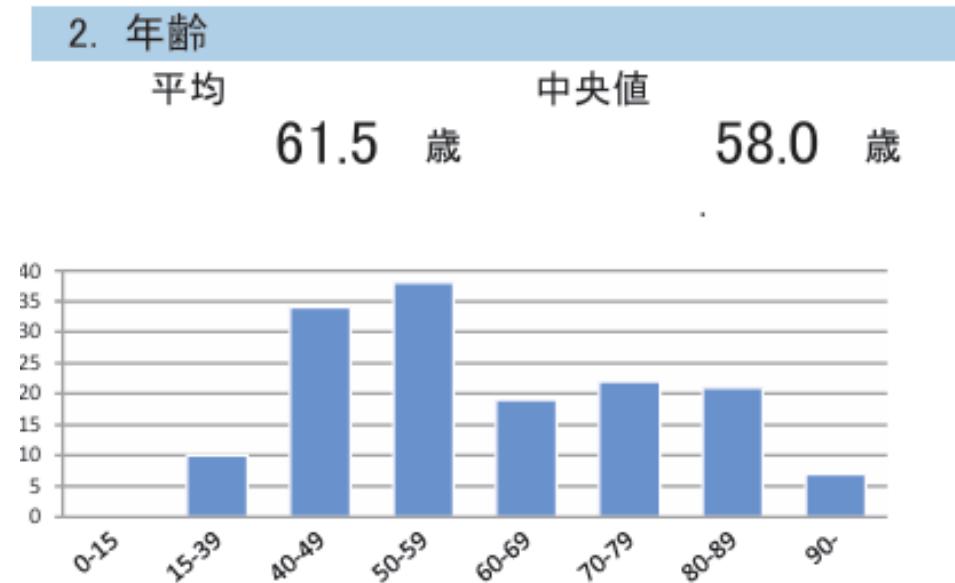


←当院では、大腸がんは2021、2022年と増加、2022、2023年と減少となりました。↓全国的には大腸がんは年々増加傾向にあります。



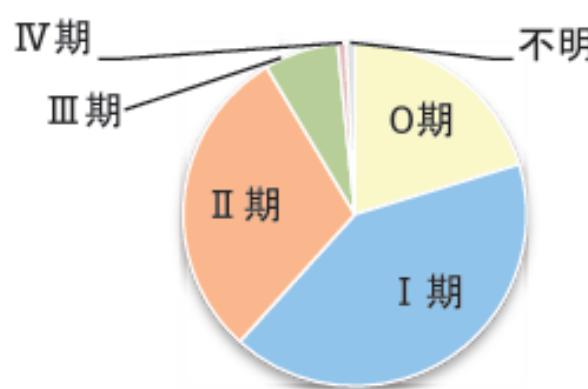
5. 乳がん

谷津保健病院

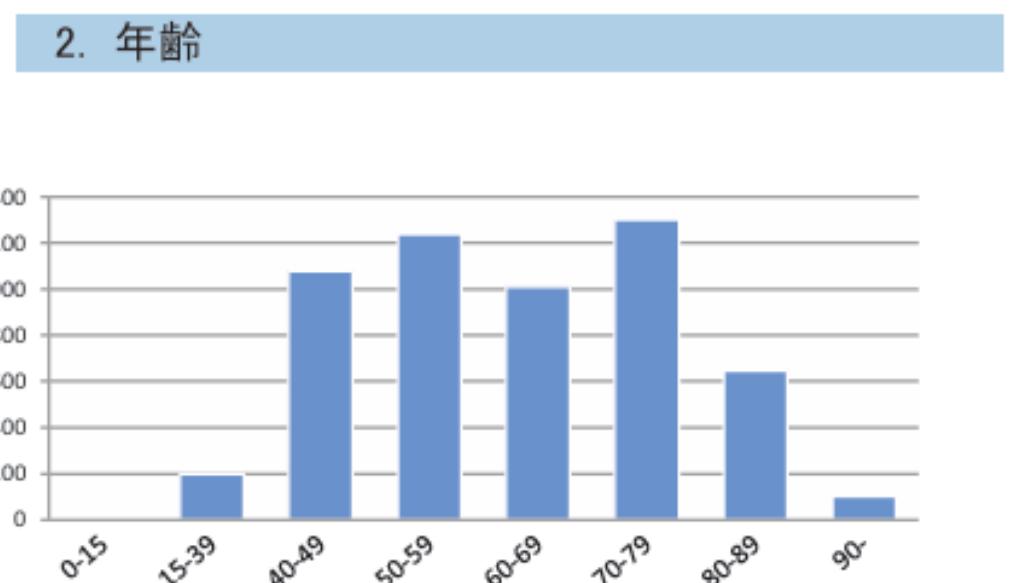


総合ステージ

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
件数	26	53	38	(7~9)	(1~3)	(1~3)	128
割合	20%	41%	30%	—	—	—	

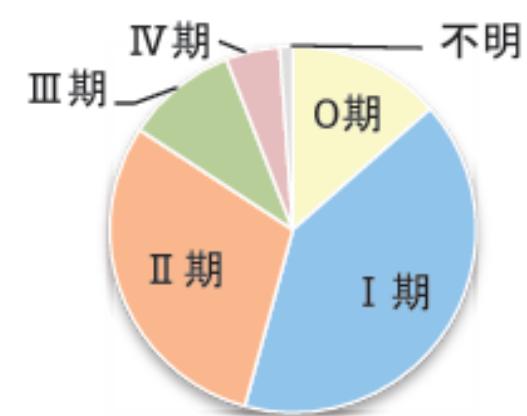


千葉県全体

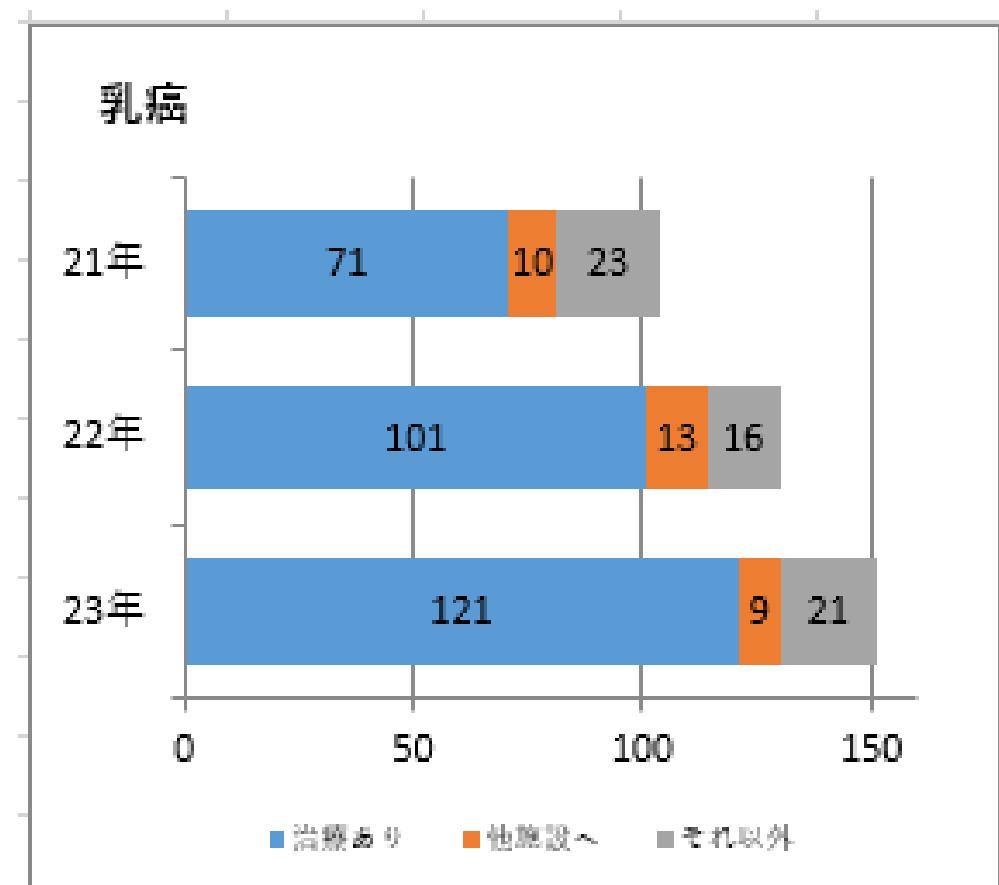


総合ステージ

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
件数	662	1,993	1,466	484	234	56	4,895
割合	14%	41%	30%	10%	5%	1%	

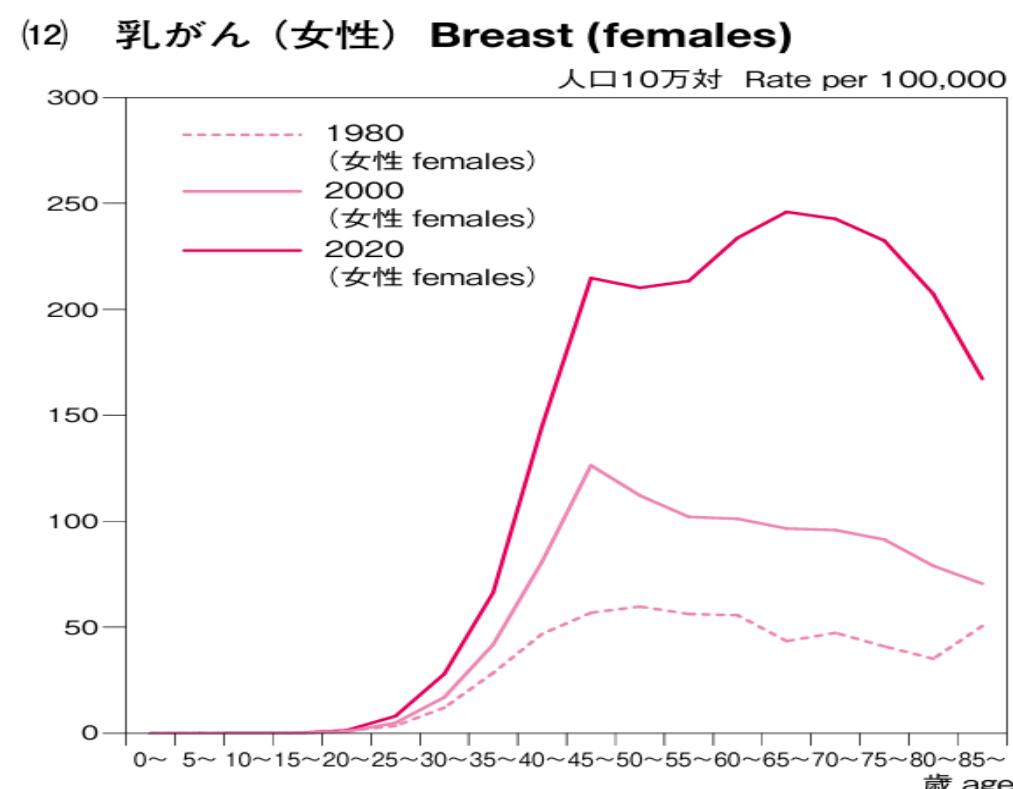


↑ 乳がんの年齢分布は平均が60歳台前半であることは千葉県全体と同じです。当院では40~60歳が多く、それ以上の高齢者が少ない傾向にあります



←当院では、乳がんは年次的に増加傾向にあります。

↓全国的にも乳がんは年々増加傾向にあります。



当院のがん治療（手術）の年次推移

消化器がん手術

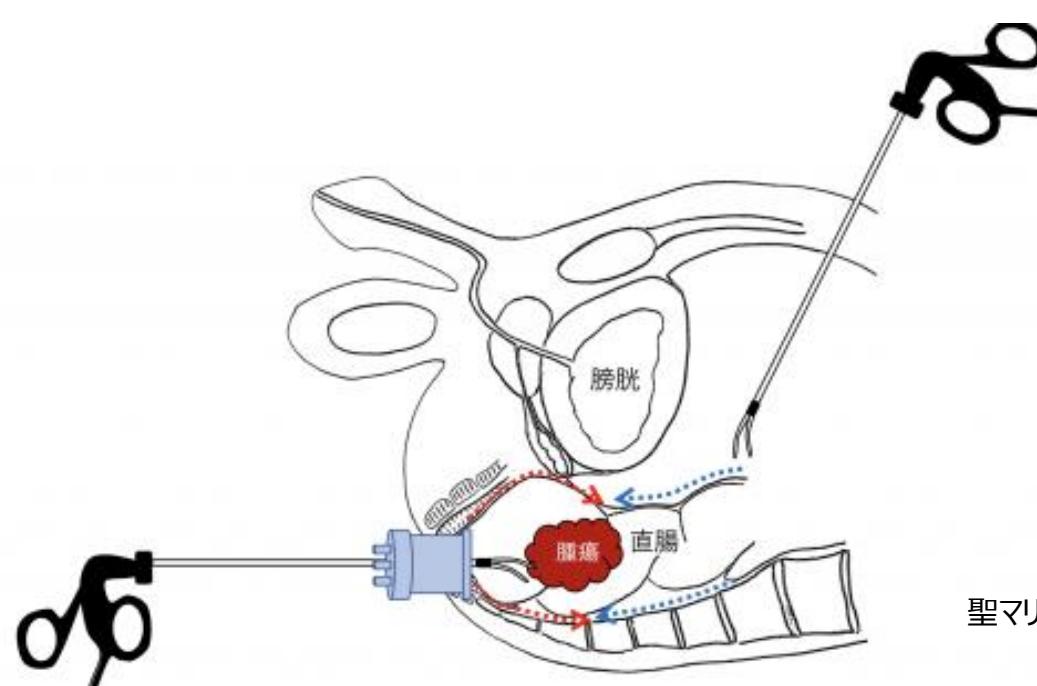
NCD (National Clinical Database)登録例

消化器がん手術件数	2020		2021		2022		2023		2024	
	開腹	鏡視下	開腹	鏡視下	開腹	鏡視下	開腹	鏡視下	開腹	鏡視下
胃癌	9	7	5	9	4	10	5	11	3	7
大腸癌	15	29	13	35	17	36	8	36	8	29
肝臓癌 ※1	7	1	7	1	7		4		2	
肝臓癌(RFA)	5		3		1		3		1	
胆のう癌	1						1	2	2	
膵臓癌	1		3		1		0			
悪性その他（※2）	3	1		2	2	1	2		2	
計	41	38	31	47	32	47	23	49	18	36
鏡視下手術率(%)	51		63		60		71		68	
総計	79		78		79		72		54	
(※2) その他内訳	虫垂・十二指腸・尿膜管		虫垂・十二指腸		空腸・胆管・肺		十二指腸乳頭部・胆管		虫垂・後腹膜	
※1 肝臓がんは転移巣含む		注) 鏡視下手術率はRFA除き算出								

ここ数年は消化器外科の手術は年間70例前後で推移しています。
鏡視下手術の割合は概ね70%です。

＜2025年のトピックス＞

・直腸癌に対する**経肛門的直腸間膜切除術（TaTME）**の導入
通常の腹腔からの操作に加え、肛門からもカメラと鉗子を挿入し直腸と直腸間膜を切除する術式で適切な切除ラインを定めることができます。



聖マリアンナ医科大学横浜市西武病院 H P より

消化器内視鏡手術

消化器内視鏡手術件数	2020	2021	2022	2023	2024
食道がん	7	5	5	3	4
胃がん	26	35	24	17	15
大腸がん	57	60	63	46	36
総計	90	100	92	66	55

消化器内視鏡手術として、食道、胃、大腸の早期がんに対する低侵襲治療、①内視鏡的ポリープ切除術（ポリペクトミー）、②内視鏡的粘膜切除術（EMR）、③内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）がおこなわれています。例年100例前後で推移していましたが最近は減少傾向にあります。

乳がん手術

乳腺外科手術件数	2020	2021	2022	2023	2024
乳房全摘出術	36	42	43	53	72
乳房温存術	38	32	39	54	47
再建併施	7	4	8	7	10
総計	74	74	82	107	119

乳腺外科の手術は例年年間70-80例台で推移していましたが
ここ数年は100例を超えていいます。 乳がん発生数は年々増加していることが一因と考えられます。

<2024-2025年のトピックス>

- ・「**乳がんサロン**」が始まり、多くの乳がん患者さんが集い、交流の場として活用されるようになりました。
- ・HER2低発現に対する抗HER2療法（エンハーツ）およびホルモン陽性HER2陰性の再発乳がんへのカピバセルテイブ（トルカプ）療法が導入されました。

子宮がん手術

	2020	2021	2022	2023	2024			
子宮頸癌 (子宮内癌)	1	0	2	1	1	※円錐切除術の件数		

婦人科では子宮頸がん（子宮内癌）に対する手術（円錐切除）がおこなわれています。

泌尿器がん治療

泌尿器科では膀胱がんに対する経尿道的膀胱腫瘍切除術、BCG膀胱内注入療法、また前立腺癌に対してホルモンがおこなわれています。

経尿道的膀胱がん手術： 11例

ホルモン療法： 69例

BCG膀胱内注入療法： 10例

(2024年)

当院の化学療法（2024年）

化学療法（注射件数・内服件数）※内服件数：処方枚数

	化学療法（注射）		化学療法（内服:外来）	
	患者数	延べ実施件数	患者数	延べ件数
外科	199	1863	287	1250
消化器内科	0	0	0	0
泌尿器科	0	0	2	8
婦人科	3	16	0	0
内科	3	8	2	5

乳がん、消化器がん領域でのがん患者の増加、化学療法薬剤の新規開発の著しい増加、術前化学療法の適応症例の増加、新たなレジメの増加などにより化学療法件数は増加しています。

当院の化学療法

トピックス

- トルカブ[®]（一般名；カピバセルチブ）フェソロデックス[®]（一般名：フルベストラント、）との併用療法で、「内分泌療法後に増悪したPIK3CA、AKT1又はPTEN遺伝子変異を有するホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術切除不能又は再発乳癌」が承認され、当院にて治療開始

ホルモン陽性かつHER2陰性乳癌の再発治療における一次治療としてCDK4/6阻害剤とホルモン療法の併用が行われていますが同剤に対する耐性獲得症例に2nd line治療として特定の遺伝子変異があることを確認した上で適応となります。当院にて実施され、奏功、延命効果が確認されています。

○2024年の大腸がん化学治療

2024年は大腸がん治療において、遺伝子検査結果に基づく「一人ひとりに合った抗がん剤選択」がさらに進みました。遺伝子（RAS、BRAF）変異や腫瘍の部位を考慮した治療により、効果と安全性の両立を目指しています。

当院では医師・薬剤師・看護師が連携し、副作用の早期対応や生活への影響を最小限に抑えられるように取り組んでいます。患者さんが「治療を続けながら、自分らしい生活を送れること」を大切に、今後も安心できるがん治療を提供していきます。

緩和医療

当院は千葉県がん診療連携協力病院として、がん患者さんの痛みや苦しみを和らげる緩和ケアを行っています。

当院で急性期がん診療ののち、緩和医療に移行する患者さん、がん専門病院や在宅診療施設から紹介いただく患者さんの緩和診療を行っています。

薬物による疼痛緩和のみならず栄養管理、緩和的リハビリテーション、ドレナージ（胸水・腹水除去、CART（腹水濾過濃縮再静注法））、ステント治療（食道・胃・大腸・胆道の悪性狭窄に対する拡張法）などに対応しています。

緩和ケアチーム(医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・退院調整看護師)によるサポートを行っています。

緩和ケアチーム 介入症例 2024年

頭頸部がん :	1
肺がん :	1
乳がん :	4
大腸がん :	1
肝細胞癌 :	4
膵がん :	2
前立腺がん :	1
膀胱がん :	2

地域連携パス

がんの地域連携クリニカルパス（地域連携パス）とは、がん診療連携拠点病院、協力病院と地域の医療機関等との間でかわされる各々の役割分担や医療者用地域連携診療計画表及び患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する一連の診療全体の流れを体系化したものをいいます。地域連携パスを活用することで、地域のかかりつけ医（連携医）とがん診療連携拠点病院、協力病院とが協力して情報交換・共有を行い、患者さんの視点に立った、安心で質の高い医療を提供・継続する体制を構築することができます。

地域連携パス 2024年運用開始例 乳がん： 26例

連携施設

- ・Y&Mクリニック幕張
- ・船橋乳腺クリニック
- ・奏の杜クリニック
- ・ドクターランド幕張

がん相談 (2024年)

がん相談支援センターは『がんに関するさまざまな不安や悩み』についてどなたでも相談できる窓口です。
1F外来6番窓口にて相談員が対応しています

相談内容	件数
ホスピス、緩和ケア病棟等への転医相談	51
在宅診療への移行	38
その他の退院支援	13
他医療機関への紹介	1
セカンドオピニオンについて	1
入院相談・バックベッド	52
受診方法について	
外来受診について	
各種がん治療について	7
化学療法（副作用）について	
代替医療について	
食事・服薬について	3
不安・精神的苦痛について	5
医療費・生活費について	7
就労相談	2
職場環境について	
介護について	9
家族関係について	3
患者会について	
集計	192

地域医療部集計